

魅力

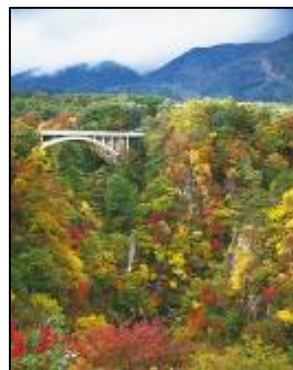
自然

温泉・リゾート

体験・イベント

まちめぐり・まち景観

## 異業種連携のまちおこしを実践して 魅力を向上



「鳴子ツーリズム」として地域全体の構想を明確化し、鳴子温泉郷を構成する5つの温泉地の観光振興事業を商店街活性化事業等と連携する。業種を越えた住民主体の取り組みは、地域活性化の原動力となっている。活気を取り戻した温泉街へ宿泊客の回復が見られる。



温泉郷を構成する五地区の一つ鳴子温泉

### 宿泊者数

宮城県統計

平成14年(2002)	77万人
平成15年(2003)	72万人
平成16年(2004)	81万人
平成17年(2005)	83万人
平成18年(2006)	80万人

取組

PR・誘致活動

案内・情報提供

景観保全・環境整備

人材育成

体験・イベント開催

広域連携の促進

### アートとグリーンツーリズム



湯治と農業体験をむすびつけた「田んぼ湯治」

東鳴子温泉では、現代版湯治としてアートや音楽、映画との結びつきを提案している。若手作家との交流とアート作品の製作・展示や駅コンサート、映画祭などのイベントも開催されている。また、農業体験と湯治を組み合わせた「田んぼ湯治」も実施され、農、食、湯治を結びつけた季節毎の交流を企画している。

### 多彩な取り組みによる宿泊温泉地へ

病院での診療、リハビリと湯治をリンクした温泉療法プランは観光協会が主導して実施。旅館経営者が市民農園の運営にあたるなど、多彩な活動に地域の観光関係者が中心的に携わっている。



まちなかのミニパークでの足湯

### 商店街、大学、JRの協力

JR鳴子温泉駅からひろがる鳴子温泉では、商店街の活性化として「一店逸品」の店舗毎の特色づくりや空き店舗を活用した交流拠点を整備している。県立宮城大学のフィールドワークから提案された「下駄も鳴子」をキャッチフレーズにそぞろ歩き、湯めぐりも実施。温泉の楽しみに加え、商店街の楽しみも。JR等の協力もあり、鳴子温泉地区で80万人台の宿泊者がある。

### 鳴子ツーリズム研究会

平成16年に民間主導により、異業種からなる「鳴子ツーリズム研究会」を組織し、現在、温泉郷を構成する五つの地区から55名が参加している。従来の観光、商業、農業等毎の取り組みから横断的な取り組み体制を構築し、「鳴子ならではの」を追求、実践、情報発信し、旅人との交流を通じた住民の成長、共生を目指す。同研究会のもと各地区が特色を活かし旅館、温泉街の活性化にとどまらず地域、産業の活性化・賑わい造成に一体となった取り組みを実施している。地域活性化の優良事例として平成19年総務大臣から表彰された。



鳴子こけしの絵付け体験

### 広域観光ニーズへの対応

従来、鳴子温泉郷内だけで行ってきた「湯めぐり手形」「湯めぐりチケット」を、県境を越えて山形県最上町にも拡大。また、鳴子温泉郷と同様に古くからの湯治場である山形県肘折(ひじおり)温泉、秋田県秋の宮温泉と連携して「渡り湯治」という新たな提案をし、長期滞在を視野に入れ情報交換、配信を実施している。

宮城県大崎市鳴子総合支所観光農林課

TEL:0229-82-2026 URL:<http://www.city.osaki.miyagi.jp/guest/kanko/shiseki/narugo-onsen.html>